



辻議員は、9月定例議会で文教委員会に所属が決まりました。10月1日の委員会質疑では、「教職員定数をめぐる問題」と、「教職員の健康管理の問題」、また、19日には「教職員の超過勤務問題」を、それぞれ取り上げました。

### 教職員は全国最下位の充足率 「教育行政の役割を果せ」

文部科学省が実施した公立小・中学校の教職員定数の充足状況調査によると、広島県は平成15年度、全国最下位です。

辻議員は、「広島県の充足率が98・5%で、213人不足している。他の未充足の県と比べても突出している」と指摘し、県教委の受け止めと、平成16年度5月1日現在の小・中学校の充足率を尋ねました。

教職員課長は、「充足率は98・2%。H13年度から、国が少人数指導、習熟度指導を推進する観点から、非常勤講師を活用するための制度改正をおこなっている。本県でも、非常勤講師を活用しながら少人数指導の実施等をおこなっている」とのべ、充足率の原因は、人材不足や非常勤講師の活用が十分でなかった状況をあげ、「積極的に人材の確保に努めたい」と答弁。辻議員は、「全国同じ条件でありながら、今年度はさらに低い。本来の教育行政としての役割を果たしていない」と指摘しました。

### 非常勤の多用化は問題

平成16年度の常勤者1万3612人のうち、定数内臨時採用教職員は、小学校323名、中学校226名、計549名。広島県の定数政策の問題点は、非常勤の多用化です。

辻議員は、「中1の『はつらつプラン』、中2・中3の習熟度別の少人数指導について、学校の希望により非常勤講師が配置されるが、（非常勤講師の不足で）未配置学校があると聞く。実態はどうか」と質問。教職員課長は、「非常勤講師の確保が難しい案件をのべ、「引き続き人材確保に努める」と答えました。

### 常勤職員の増員を要求

辻議員は、「いま定数政策の転換を図らなければ、いつまでもこの悪循環を繰り返していく。その結果、子供に基礎・基本をつけさせる少人数指導にならないのは当然だ。常勤職員をきちんと採用する方向に転換すべき」と、教員採用数を増やことを求めました。

教職員課長は、「来年度は、今年度の採用数に比べ約130人増の約350人を採用する。今後とも非常勤講師等、人材の確保に努めるとともに、教員採用についても計画的な採用に努めたい」との考えを述べました。

辻議員は、「臨時採用講師の多用化は安上がりで定数政策。県教委の定数削減の計画（今後3年間で970人程度も出されており、一体の問題だ」と、教育条件の整備を充実させるよう、強く求めました。

### 復帰後の経過観察は行き過ぎ

辻議員は、教職員が長時間・過密労働により健康を害している問題で、県教委が8月から「教職員健康管理システム」を導入した趣旨を周知徹底するよう要求。教職員の長時間労働の「見きわめ」や、精神疾患による病気休暇から復帰する際の対応について尋ねました。

当局は、長時間労働は、「面談で判定する」と答弁。復帰は、「校長が一週間の経過観察を実施した上で可否を判断する」と答えました。辻議員は、「経過観察は、本人が医師、校長とも相談をして対応していけばすむ問題。医師や教育委員会等の判断で復帰しながら、また一週間、経過観察を校長にやらせることは行き過ぎである」と指摘し、見直しを求めました。

**日本共産党  
県議会ニュース**

2004年12月  
11

日本共産党広島県議会議員

・fax 082(228)6577  
ホームページ  
http://tsuneo.jp/

日本共産党県議会議員の見解を紹介します



台風被害を受けたリンゴ園の現地調査をする辻、草谷議員ら = 10月28日、高野町



化製場建設問題で県に陳情する、湯来町・大山町内会の人たちなど = 10月13日



化製場の建設予定地を調査する、(右から)牧野、大畑、辻の各議員 = 10月8日、湯来町



新田議長に、請願を提出する、「いのちを守る会」の代表ら = 9月27日